

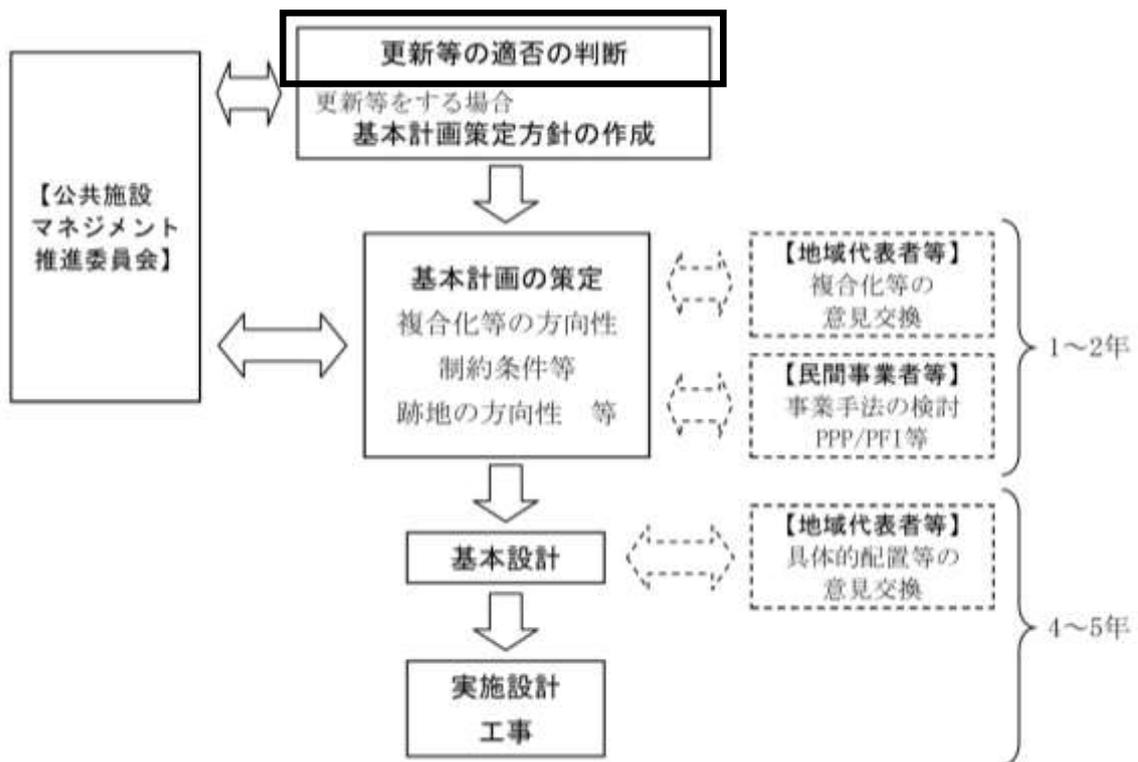
## 中央公民館、健康福祉事務センター及び民具庫に関する更新等について

### 1 背景及び位置づけ

平成27年2月に「小平市公共施設白書」を発行し、同年12月に「小平市公共施設マネジメント基本方針」を策定しました。白書で示した将来的な大きな3つの課題（「人口減少・少子高齢化」、「財政バランスの悪化」、「施設の老朽化・更新時期の集中」）に対応するため、基本方針では市制施行100周年を迎える平成74年度を見据え、「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」という基本理念と4つの方針（「魅力あるサービスの実現」、「持続可能な施設総量」、「コストの縮減と平準化」、「長く活用できる施設」）を定めました。

また、基本方針に沿った取組の推進に向けた方策を示した「小平市公共施設マネジメント推進計画」（平成29年3月策定）では、すでに目標耐用年数を迎えた施設、または計画期間中に目標耐用年数を迎える施設の更新等に向けた「基本的な検討手順」を示しています。

この「基本的な検討手順」に沿い、中央公民館、健康福祉事務センター及び民具庫に関する更新等の適否の判断をします。



小平市公共施設マネジメント推進計画 22 頁より抜粋

## 2 対象施設の概要

### (1) 中央公民館

所在地	小平市小川町二丁目1325番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第二種住居地域(60%・200%)
土地面積	8,230.55㎡(中央図書館と合算)
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1964年(昭和39年)
構造	鉄筋コンクリート造
建築面積(建ぺい率)	3,877.35㎡(47.10%)(中央図書館と合算)
延床面積(容積率)	4,222.86㎡(51.30%)
階層	地上2階、地下1階
構成(部屋名)	交流ロビー、ギャラリー、講座室、学習室、実習室等
経過年数、目標耐用年数(到来年)	54年経過、60年(2023年)
現行耐震基準	適合
設置目的	社会教育の中心的な施設として市民へ各種講座等を提供し、市民一人ひとりが、より豊かで充実した生活を営むうえで必要な生涯学習社会の実現に資する
サービス内容	各種の講座、講演会、公民館まつり、展示会等の事業を実施するとともに、社会教育関係団体等に対する各種部屋、備品、視聴覚機材等の貸し出しを行う

### (2) 健康福祉事務センター

所在地	小平市小川町二丁目1333番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第二種住居地域(60%・200%)
土地面積	2,924.81㎡
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1966年(昭和41年)
構造	鉄筋コンクリート造
建築面積(建ぺい率)	1,039.03㎡(35.52%)
延床面積(容積率)	1,623.88㎡(55.52%)
階層	地上2階
構成(部屋名)	事務室、会議室、介護認定審査会室、相談室等
経過年数、目標耐用年数(到来年)	52年経過、60年(2025年)
現行耐震基準	適合
設置目的	隣接する健康センター・福祉会館と一体となって、地域保健福祉業務及び市民の健康保持・増進事業を推進するための実施拠点及び相談拠点として、市民福祉の向上を図るために設置
サービス内容	高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉及び母子福祉に関する事項、生活保護等に関する事項など

### (3) 民具庫

#### ① 第一民具庫

所在地	小平市小川町二丁目1325番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第二種住居地域(60%・200%)
土地面積	8,230.55㎡(中央公民館・中央図書館敷地内)
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1974年(昭和49年)
構造	軽量鉄骨造
建築面積(建ぺい率)	82.81㎡(1.00%)
延床面積(容積率)	82.81㎡(1.00%)
階層	地上1階
構成(部屋名)	民具展示収蔵庫
経過年数、目標耐用年数(到来年)	44年経過、40年(2013年)
現行耐震基準	不明(未調査)
設置目的	民具を収蔵し、見学を希望する市民に公開し、その教養及び学術の向上に寄与することを目的とする ※齋藤素巖の石膏原型及びブロンズ像を保管
サービス内容	希望する者に公開を行う

#### ② 第二民具庫

所在地	小平市小川町二丁目1325番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第二種住居地域(60%・200%)
土地面積	8,230.55㎡(中央公民館・中央図書館敷地内)
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1978年(昭和53年)
構造	軽量鉄骨造
建築面積(建ぺい率)	152.15㎡(1.84%)
延床面積(容積率)	304.26㎡(3.69%)
階層	地上2階
構成(部屋名)	民具展示収蔵庫、収納庫
経過年数、目標耐用年数(到来年)	40年経過、40年(2017年)
現行耐震基準	不明(未調査)
設置目的	民具を収蔵し、見学を希望する市民に公開し、その教養及び学術の向上に寄与することを目的とする
サービス内容	民具を収蔵し、公開を行う

#### ③ 第三民具庫

所在地	小平市小川町二丁目1325番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第二種住居地域(60%・200%)
土地面積	8,230.55㎡(中央公民館・中央図書館敷地内)
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1974年(昭和49年)
構造	軽量鉄骨造
建築面積(建ぺい率)	68.00㎡(0.82%)
延床面積(容積率)	68.00㎡(0.82%)
階層	地上1階
構成(部屋名)	民具収蔵庫

経過年数、目標耐用年数（到来年）	44年経過、40年（2013年）
現行耐震基準	不明（未調査）
設置目的	民具を収蔵し、その教養及び学術の向上に寄与することを目的とする
サービス内容	民具を収蔵・保管する

### 3 更新等の適否の判断

#### (1) 中央公民館

中央公民館は、建築当初は本庁舎として、1964年（昭和39年）に建築されました。現在の本庁舎が建築された後は、中央公民館として社会教育施設の機能を活かしたサービスを提供しています。

近年では、平成29年度に耐震基準に適合させるため、耐震補強工事を実施していますが、建築から54年が経過し、施設の老朽化が進んでいる状況です。

社会教育の中心的な施設として市民へ各種学級・講座等を提供し、市民一人ひとりが、より豊かで充実した生活を営むうえで必要な生涯学習社会の実現に資するために設置されています。中央公民館は、11館ある公民館の中では利用率が最も高く、生涯学習の拠点として、全ての公民館の中核的な役割を担っています。

市全域からの市民の利用を前提とした施設で、公民館の中核的な役割を担う機能を継続する必要があり、また老朽化が進んでいる状況であることから、「更新等を行う」ものとします。

#### (2) 健康福祉事務センター

健康福祉事務センターは、建築当初は多摩小平保健所として、1966年（昭和41年）に東京都が建築しました。その後、東京都から小平市への移管に伴い、平成14年度からは健康福祉事務センターとして開所しました。建築から51年が経過し、施設の老朽化が進んでいる状況です。

健康福祉事務センターは、隣接する健康センター・福祉会館と一体となって、地域保健福祉業務及び市民の健康保持・増進事業を推進するための実施拠点及び相談拠点として、市民福祉の向上を図るために設置されています。なお、東京都から移管の際に保健福祉機能として10年間利用することが取り決めの中で定められましたが、既に期間を経過し、機能に関する制約はなくなっています。

行政事務を執行する施設で事務機能の継続及び事務スペースを確保する必要があり、また老朽化が進んでいる状況であることから、「更新等を行う」ものとします。

#### (3) 第一民具庫、第二民具庫、第三民具庫

第一民具庫は、1974年（昭和49年）に建築され、主に齋藤素巖の作品を収蔵しています。

第二民具庫は、建築当初は教育委員会事務局事務室として、1978年（昭和53年）に建築されました。その後、教育相談室として活用され、教育相談室が小平元気村おがわ東に移った2004年（平成16年）からは、民具庫として活用しています。

第三民具庫は、建築当初は庁用車の車庫として、1974年（昭和49年）に建築されまし

た。その後、民具の収蔵場所確保の観点から、1998年（平成10年）からは民具庫として活用しています。

いずれの民具庫も構造は軽量鉄骨造で目標耐用年数は40年であり、第一民具庫及び第三民具庫については、目標耐用年数を超え、第二民具庫も老朽化が進んでいる状況です。また、敷地は都市計画道路用地となっています。

民具庫は、不特定多数の市民が利用する施設ではないこと、都市計画道路用地内であることを踏まえ、当面の間は機能を維持しつつ、必要に応じた修繕を行うことで継続して使用することとし「更新等を行わない」ものとしします。

民具の収蔵等のあり方については、これからの環境の変化を見据えながら、今後検討するものとしします。

#### 4 基本計画策定に向けて

「更新等を行う」とした中央公民館及び健康福祉事務センターについては、「基本的な検討手順」に基づき、基本計画策定方針を作成します。両施設は近隣施設であることから、建て替えに際しては複合化していくことを検討します。また、老朽化の進む福祉会館をはじめ、その他の施設の複合化や機能移転の可能性も合わせて検討します。

複合化などにより、共用部分などの面積及び機能が整理され、公共施設マネジメント基本方針で掲げた「持続可能な施設総量」等の推進が期待できます。